

**<令和4年度 ICT活用促進プロジェクト実践推進校・学力向上実践推進校 藤岡市立西中学校>**

学年・教科：3年・社会科      単元名：「現代の民主政治と社会」

ねらい：地方自治の現状から考えられる課題と今後の対策について、「効率と公正」「持続可能性」等の視点から多面的・多角的に考察し表現できるようにする。

教師の発問、児童生徒の反応    ◎学びのつながり    ★ICTの活用	学習の様子
<p><b>1 前時の学習を振り返るとともに、本時の学習課題を確認する。(5分)</b></p> <p>これまで</p> <p>◎★前時の地方自治の仕組みについて振り返り、スクリーンに重要語句を映し確認をする。 ★群馬県の市町村合併前後の図をスクリーンに映し、変化を確認するとともに、本時の授業への興味・関心を高める。 ◎家庭学習で取り組ませた4つの資料を提示しながら、本時のめあてを確認する。</p> <p>ここでは</p>	
<p><b>&lt;めあて&gt; 地方自治の課題をとらえ、地域の「持続可能性」から対策を考えよう！</b></p>	
<p><b>2 地方自治の現状について、資料を活用しながら理解する。【全体】(10分)</b></p> <p>◎★4つの資料から読み取った情報について、生徒に事前提出させた解答をもとに、意図的指名を行い確認する。</p> <p><b>3 資料から捉えた地方自治の現状をふまえ、それぞれの事象の理由について考える。【グループ】(15分)</b></p> <p>★それぞれの資料から読み取った事象が見られるのはなぜなのかについて生徒に投げかけ、グループごとに、スプレッドシートにその理由を書かせる。</p> <p><b>4 資料から読み取った事実の背景について全体で話し合い、地方公共団体が抱える課題を見出し、今後の対策について考える。【全体】(8分)</b></p> <p>T：なぜ、地方税が半分しかないのに地方自治体はやっつけられるのだろうか？(資料①) S：国からの補助金等があるから・・・ T：なぜ、地方税の割合が都道府県によって差があるのだろうか？(資料②) S：人口に差があるから。東京は人口が多いから地方税が多い。逆に、鳥取県は少ない。 T：なぜ、地方債が増えているのだろうか？(資料③) S：借金をしないと、地方公共団体で行う事業などが回らないから。 T：でも、みんなの大切な税金だよ。    S：・・・ T：なぜ、市町村の数が減っているのだろうか？(資料④) S：人口が減って、一つの自治体ではやっていくのが難しくなってきたから。 ・教師は、複数の資料を関連付けて考えられるように、黒板に整理するとともに、「効率」や「公正」といった視点でこれらの事象が現れていることについても気づかせていく。 T：どんな課題が見えてきますか？ S：お金。人口。 T：「お金」と「人口」の2つのキーワードをもとに、地方公共団体が抱える課題とその課題に対して「持続可能性」の視点をもって対策について考えて書いてみよう。 ★スプレッドシートは、他のグループの意見も参考にできるように画面共有をしておく。</p> <p><b>5 本時の授業のまとめと振り返りをタブレット端末に記入する【個人・全体】(10分)</b></p> <p>★教師がまとめとして書けるとよいと考えたことをオクリンクで生徒に送る。</p>	
<p><b>&lt;まとめ&gt; (例)</b></p> <p>地方自治の現状の課題は、自主財源の確保と少子高齢化対策。今後の持続可能性を考えると、移住の促進、雇用の確保、子育て世代への援助などの対策を進めていく必要があると考えられる。</p>	
<p>★本時の振り返りをワークシートに記入後、カメラで写させオクリンクで提出させる。 ・意図的指名を行い、発表させる。</p>	
<p><b>&lt;振り返り&gt;</b></p> <p>S:地方自治が抱える課題を解決して、持続可能な社会を創るために、自分たちにもできることを考え行動していきたいと思う。</p>	
<p><b>6 次の授業に向けての資料を生徒に配る。【全体】(2分)</b></p> <p>このあとは</p> <p>T：次時は、藤岡市を持続可能な地方自治とするための取組について考えます。そこで、「藤岡市の歳出」と「地方債の推移」「人口の推移」についてのグラフを送るので、グラフから藤岡市の現状について、家庭学習で考えてきてください。 ★オクリンクで、資料を送付する。</p>	

